



ANNUAL REPORT

cycle of love

認定NPO法人STORIA

2024年度

ご挨拶

2024年度も、STORIAの活動を支えてくださった皆さま、心より感謝申し上げます。

この一年、私たちは約4,000世帯の親御さんと子どもたちに出会い、
お一人おひとりの人生に関わらせていただく時間を重ねてきました。

STORIAが大切にしているのは、支援という言葉を超えた“心のつながり”です。

速さや効率よりも、その人が抱えている様々な苦しみをともに感じ、その方が持っている本来の願いに光をあてる
私たちは何より大事にしてきました。

つながりの中で安心が生まれ、信頼が育まれると、これまで心の奥にそっとしまい込んでいた願いが、
言葉となって現れます。私たちはその瞬間を“希望”と呼んでいます。

2024年、皆さまのあたたかなご支援のおかげで、困難を抱えた親御さんや子ども達の心が温まり、
絡まっていた糸が少しずつほどけ、静かな灯がともるような変化が生まれました。

2025年度も、応援くださる皆さまとともに、人と人がつながり合う力を信じながら、
ゆっくりと、しかしながら確かな歩みで「愛情が循環する世界」を築いてまいります。

この度は、STORIAに関わってくださっている皆さまに、心より感謝を込めて
2024年度の報告書をお届けいたします。



認定NPO法人STORIA
代表理事 佐々木綾子

CONTENTS

- 01 — Organization Profile
- 02 — 2024年度活動のご報告
- 03 — 2024年度活動の会計報告
- 04 — STORIAを支えてくださる方
- 05 — ご寄付について
- 06 — おわりに



ありのままでいい
きみの物語は
きみのもの

Be yourself.
Your story belongs to you.

Organization Profile



STORIAは、さまざまな困難を抱えるご家庭やこどもたちに寄り添い、「包摂する場と関係性」を育む事業、地域社会には「理解と変化を生み出す事業」を通じて、「愛情が循環する未来」を目指しています。

また、私たちは Nonprofit Organization として、これまで解決されてこなかった社会課題に対し、次の3つを軸に活動しています。

1. 創造的で本質的な事業を開発し、実践すること
2. 多様なセクターをつなぎ、変化を生み出す“ハブ的な存在”となること
3. 想いを共にする多様な方々と愛ある社会を築くための“社会参画のプラットフォーム”であること

私たちSTORIAは、これらを柱として、目の前にいるお一人おひとりと社会に、愛情の循環を築いていきます。

VISION 愛情が循環する未来へ

アプローチ1 こどもと保護者の包摂を

ひとり親等の
相談事業

ひとり親等の
就労事業

サード
プレイス事業

緊急支援
事業

企業
他団体
研修

協働事業

啓発事業

政策提言

アプローチ2 社会に理解と変化を

HISTORY

- 2016 小学生のサードプレイス事業開設 啓発事業（仙台・東京）
- 2020 ひとり親等の相談支援事業開始 政策提言
- 2021 見守り支援事業開始 企業研修・他団体ノウハウ研修事業
- 2023 中高生のためのサードプレイス事業開始 ひとり親等の就労支援事業開始

KEY DEVELOPMENTS IN FY2024

— 小さく生まれた価値を、社会の仕組みに —

2024年度は、STORIAが大切に育ててきた取り組みが、確かな形となり、“生み出された価値”が“社会の事業”へと育ち始めた一年でした。

1. 子どものためのサードプレイス事業の仙台市施策化による拠点拡大

2016年からの実践が仙台市の施策化となり、市内に子どものサードプレイスが3拠点に広がりました。現場から生まれた、「子どものサードプレイス（居場所）」が、公的な仕組みへと広がっています。

2. 行政協働の深化による委託事業の複数年契約化

「ひとり親家庭等の相談支援事業」「見守り強化事業」が、委託事業として、3年間の複数年契約となり、子育て支援を支える必要不可欠な事業として位置づけられました。

3. 賛同者の広がりと新たな事業の開発

プロボノ、ボランティア、寄付者などのご支援者、協力企業など、多様な仲間が増えました。また、寄付の増収により、既存事業の安定とともに、新規事業の開発が可能となりました。

OUR SUPPORT <事業概要>

アウトリーチにより「つながる」、相談や訪問支援で「見守り・支える」、多様な連携事業で「支え続けることを行政や地域、企業、他機関等と連携し、こどもと保護者を包摂する事業を行いました。

ステップ1：つながる

仙台市と連携協働



町内会
民生委員等
と連携



他機関
他団体等と連携

アウトリーチ事業

ステップ2：見守り・支える

訪問支援



相談支援

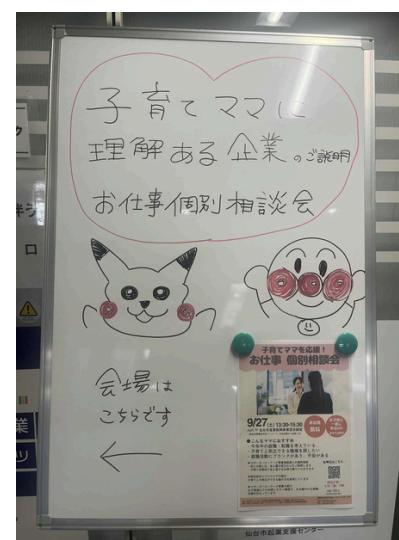


ステップ3：支え続ける

小学生の居場所



中高生の居場所



親御さんの就労支援

連携事業

見守り・相談支援事業

OUR SUPPORT

<事業実績>

* 事業年度での実績報告 2024年4月～2025年3月末

ステップ1：つながる

3,976
世帯

仙台市と連携協働



町内会
民生委員等
と連携



他機関
他団体等と連携

アウトリーチ事業

ステップ2：見守り・支える

3,188
世帯

訪問支援



相談支援



見守り・相談支援事業

ステップ3：支え続ける

165
世帯

小学生の居場所



中高生の居場所



親御さんの就労支援

連携事業

2024年度活動のご報告

OUR SUPPORT アウトリーチ事業 “つながる”

2024年度は、仙台市等の行政機関や連携団体・地域等とのアウトリーチにより、
ひとり親等相談支援事業と見守り支援事業併せて、合計3,976世帯のひとり親や困難家庭とつながりました。

アウトリーチ型 ひとり親等相談支援事業

アウトリーチ
3,879世帯



見守り支援事業

アウトリーチ
76世帯



サードプレイス・他事業

アウトリーチ合計
173世帯



ひとり親等のご家庭からのお礼の声

相談する相手もおらず、息子と2人づらい日々が続いております。こうして、POLLUXさんに悩み事を聞いてもらえること、POLLUXさんの存在が孤独な私たちにとって、とても心強い存在となっております。本当にいつも受け止めてください、ありがとうございます。

OUR SUPPORT 見守り・相談支援事業 “見守り支える”

2024年度のひとり親家庭等からの相談件数は 6,712件となりました。メールは24時間体制で受け付け、対面・電話・家庭訪問・同行支援など、そのご家庭に最も合った方法で寄り添いながら相談支援を行いました。また、見守り支援では76世帯に合計515回訪問を行い、164名の子どもたちの成長や安心を継続して見守ることができました。

物価高が続く中、「今日食べるもののがありません」という緊急性の高い声も増えています。2024年度は、皆さまからのご寄附のおかげで3,284世帯へ緊急食糧支援を届けることができました。

さらに、家から出ることができない孤立しがちな子どもたちには、ご寄附で購入した本を125名に貸し出し、新しい世界に触れる機会を届けることができました。

ひとり親等相談支援事業

相談件数
6,712件

連携対応
58件

緊急食料支援事業

緊急食料支援
3,284世帯



見守り支援事業

見守りの子どもの人数
164人

訪問件数
515件

移動図書館 めぶき文庫プロジェクト

貸し出し人数
125人



OUR SUPPORT 支える続ける事業 “支え続ける”

2016年からSTORIAが続けてきた「子どものためのサードプレイス事業」は、2023年度、仙台市の公式施策として制度化されました。拠点型と訪問型を併せ持つ全国的にも先進的な取り組みで、現制度では救いきれない家庭を支える“もうひとつ”的セーフティーネット”として機能しています。

この居場所では、子どもだけでなく親御さんも包摂的に支援し、家庭全体が安心を取り戻すことを大切にしています。

子どもたちが自分らしく過ごし、可能性と生きる力を育む場所です。現在、市内に3拠点がオープンしており、今後は仙台市全域へと広がっていく予定です。

子どものためのサードプレイス事業



地域で見守り支える居場所



仙台市内拠点



拠点型

登録数
25名

参加延べ数
866名

訪問型

登録数
8名

参加延べ数
215名

ボランティア

一般
延べ数
260名

卒業生
延べ数
433名



探究



食育



体験



まなび

OUR SUPPORT 支える続ける事業 “支え続ける”

本事業を通して、こどもたちの非認知能力が全体として大きく向上しました。特に、状況に応じて行動を切り替える力や、相手を思いやり助けようとする姿勢、最後までやり抜こうとする力など、生きる上で不可欠な力が顕著に伸びています。

居場所での安心できる対話や、多様な体験活動、訪問支援での丁寧な関わりが、こどもたちに「自分は大切にされている」という実感をもたらし、そのことが自己肯定感や意欲の高まりにつながりました。

これらの非認知能力の成長は、学校生活や家庭での行動変化にも波及し、将来の自立に向けた確かな土台となっています。サードプレイスが、こどもたちの未来を切り開く力を育む場として機能していることが確認できました。

子どものためのサードプレイス事業

■対象者・効果測定者

- 対象者：サードプレイスの拠点型に参加している小学校1～6年生の25名
- 効果測定者：支援者4名の観察調査
- 測定期間：2024年6月～2025年3月

<非認知能力測定項目>

▼自分を見る力

- ①思ったこと、いつもやってることを立ち止まれる
- ②状況に合わせて行動する

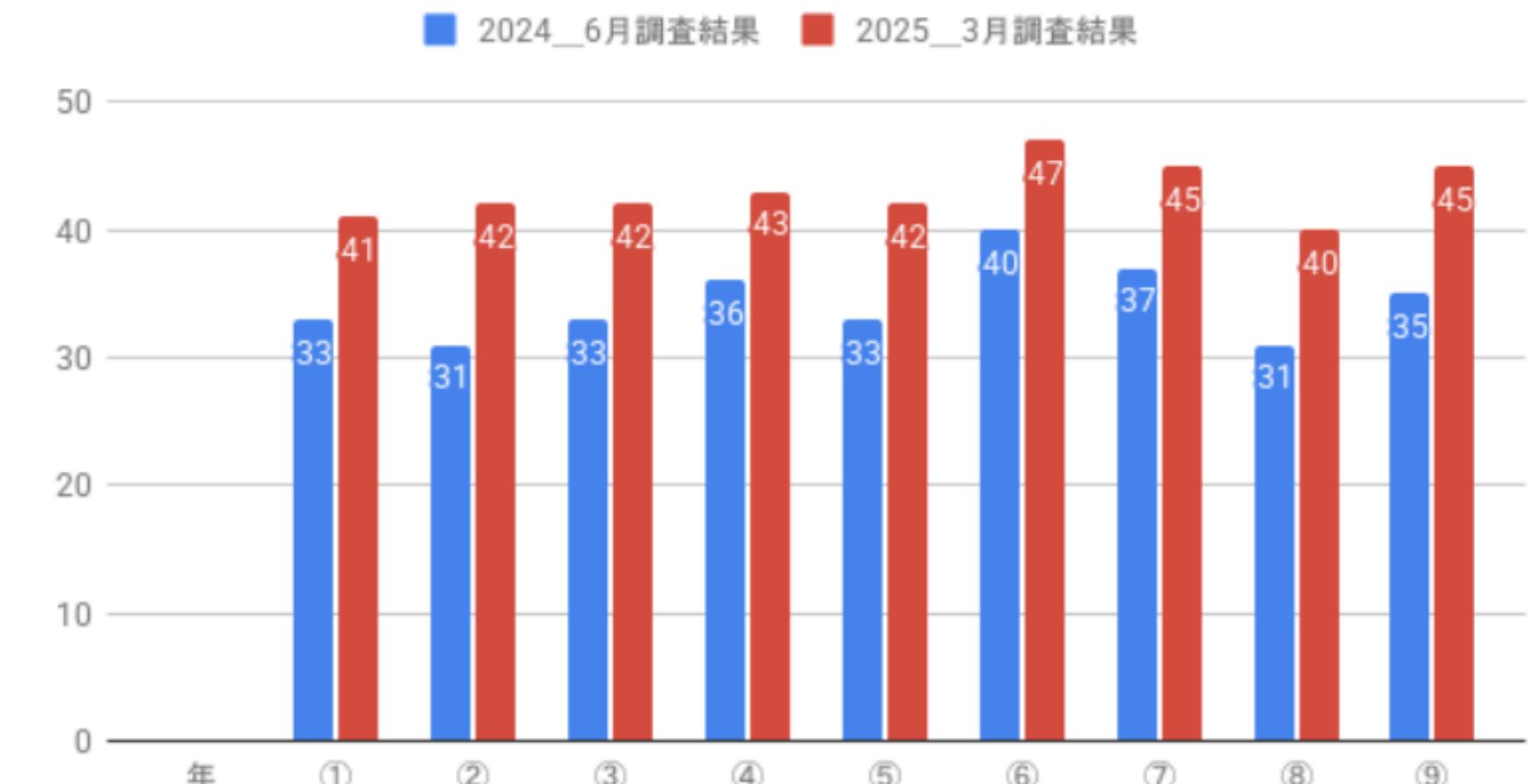
▼相手を見る力

- ③相手が何故そのような気持ちであるか理解することができる
- ④思っていることとは違う行動をしてしまうことあると理解している
- ⑤相手が何故そのような行動をしたか考えることができる

▼人と関わる力

- ⑥体験したこと振り返ることができる
- ⑦人と対立しても乗り越えようとする
- ⑧言葉を使って気持ちを表現・理解できる
- ⑨相手を助けたり、相手のために何かしようとする

2024年度非認知比較



OUR SUPPORT 支える続ける事業 “支え続ける”

2023年から始まった中高生のためのサードプレイス事業は、頼れる親や大人がそばにいない若者のための、“安心して過ごせる居場所”です。

勉強や人間関係、将来の不安など、中高生が抱える思いを受け止めながら、それぞれの若者に合った自立と幸せを一緒に考える時間を大切にしています。

安心できる大人や仲間とのつながりを通して、若者が「ここにいていい」と感じられる場を育んでいます。

親に頼ることが難しい若者たちは、ここにいる大人たちと語り合いながら自分の将来を真剣に考え、少しづつ、自分の道を歩き始めています。

中高生のためのサードプレイス事業

登録数
25名

参加延べ数
233名

若者たちは、自分たちでサードプレイスの予算管理を担い、食事や運営費を毎月計画的にやりくりしています。こうした実践的な経験が自信につながり、生活力や判断力など、将来的な自立を支える確かな基盤となっています



2024年度活動のご報告

OUR SUPPORT 支える続ける事業 “支え続ける”

ひとり親や子育て世帯への就労支援として、仙台市様、大和リース株式会社様、株式会社ママスクエア様に加え、今年度からはマザーズハローワーク様にもご協力いただき、子育て家庭を応援する企業紹介セミナーや“ママの働くを応援するイベント”を開催しました。

子育て家庭が就職・転職へ踏み出すためには、保育環境の確保、就労への恐れや不安、スキルセット、さらには企業側の受け皿の問題など、乗り越えなければならない課題が数多く存在します。

こうした背景から、就労支援事業はどうしても時間がかかり、一歩ずつの前進となることも少なくありません。

進みがゆるやかに見える場面もありますが、子育て家庭が安定した生活を築くためには欠かすことのできない、大切な取り組みであると私たちは考えています。

STORIAでは、安心して就労へ踏み出せるよう、支援の在り方を日々模索しながら、必要な環境づくりに力を尽くしています。

子育て家庭のための就労支援事業

登録数
24名

参加者からのお礼の声

・急に働く必要があり不安でしたが、セミナーに参加して、子どもと一緒に働く企業があることを知り、気持ちが軽くなりました。相談できる場所があるとわかり、とても勇気づけられました。

・ひとり親で、子どもが病気のときに預け先がなく就職が難しい状況でした。子育て家庭を応援してくれる企業があると知り、心強く、前に進む力をもらいました。



子育てママを応援! お仕事 個別相談会

9/27(土) 13:30-15:30
AER 7F 仙台市産業振興事業団会議室
(仙台市青葉区中央1-3-1) ※仙台駅から徒歩5分

参加費
無料
お子様と一緒に
参加OK
途中入退室可

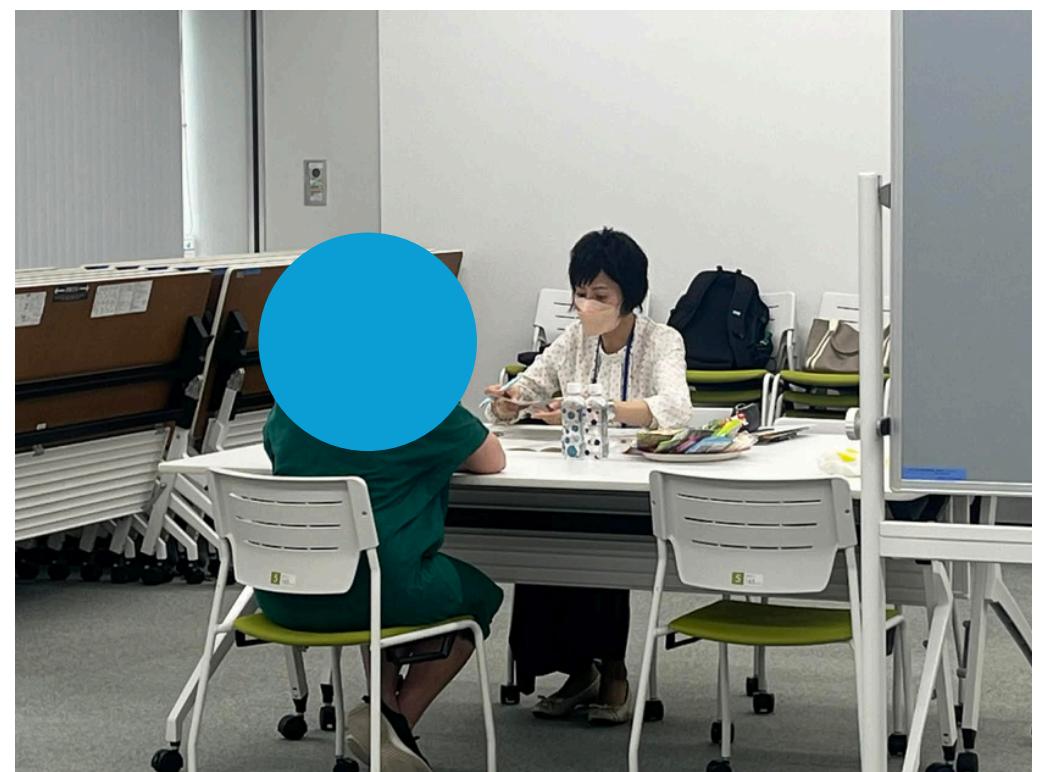
●こんなママにおすすめ
・今年中の就職・転職を考えている
・子育てと両立できる職場を探したい
・就職活動にブランクがあり、不安がある

■マザーズハローワーク青葉相談員との個別相談
・求人の探し方、求人票の見方などをご説明します
・子育て世帯向け求人冊子をお持ち帰りいただけます

■株式会社ママスクエアの紹介
子育てとの両立ができる働き方を実現しています

■マザーズハローワーク青葉の紹介
お子様連れでも利用しやすい環境で、きめ細やかな就職支援を行なっています

定員:10名
(申込多数の場合は抽選)
お問い合わせはSTORIA(ストリア)まで
Mail: info@storia.or.jp
TEL: 022-200-6309



OUR SUPPORT 支える続ける事業 “支え続ける”

STORIAでは、プロボノの方々のご協力のもと、毎月1回の啓発事業を実施しています。教育・福祉・支援関係者、そして一般の方々まで、多様な参加者が集い、子どもや家庭を取り巻く課題について理解を深める機会となっています。

これらの取り組みは、プロボノによる専門的な支援や、皆さまからのご寄附によって支えられ、地域全体で「包摂と学びの循環」を広げる大切な一歩となっています。

啓発事業

開催
10回

参加数
39名



ワークショップの参加者の声

日本のことの貧困率の高さや、今のことが置かれている現状には大きな衝撃を受けました。恥ずかしながらこのような課題にこれまで知識がなく、自分が目を向けてこなかったことを痛感しました。

同時に、この課題に真摯に向き合い、取り組んでおられる皆さんに深い敬意を抱きました。今後どのような形で関わることができるかはまだ模索中ですが、今回の学びを必ず自分の中で生かしていきたいと思います。

自己肯定感とは

「自己を肯定する感覚」、つまり「**自分は大切な存在だ**」と感じる
心の感覚

<https://biz-shinri.com/what-is-self-esteem-7635>



STORIAが実践する
「貧困の連鎖」から「愛情の循環」ワークショップへようこそ！
STORIAにとって、みなさまお一人との出会いは
宝物のようにうれしいです！

このワークショップは、STORIAの活動が目指す
「貧困の連鎖」を「愛情の循環」に変えることを自分事化して理解するた
めに設計されたものです

STORIAの活動に共感頂く仲間を増やすために定期的にこのワークショ
ップを開催しています



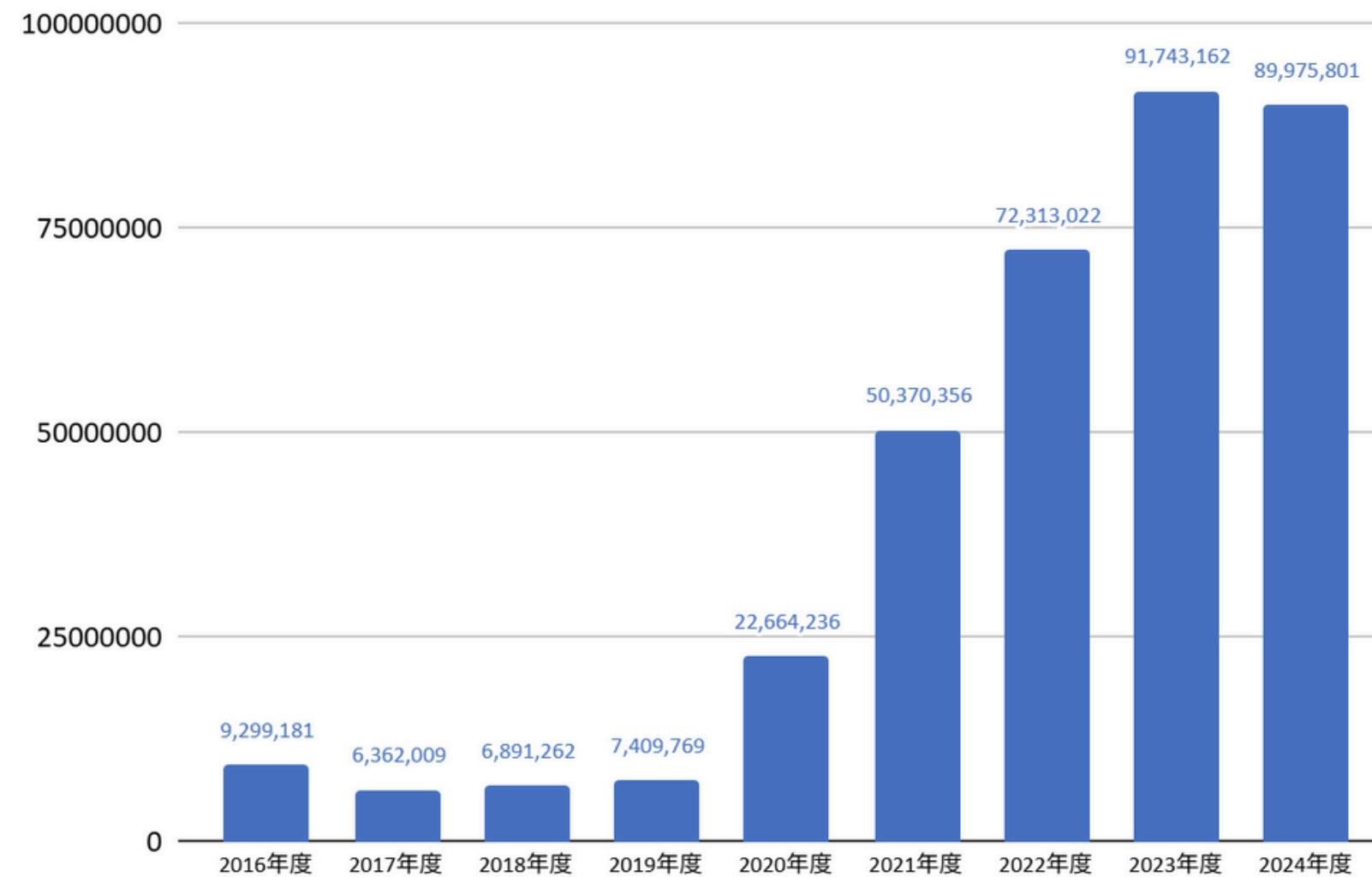
2024年度活動の収支報告

経常収益と経常費用

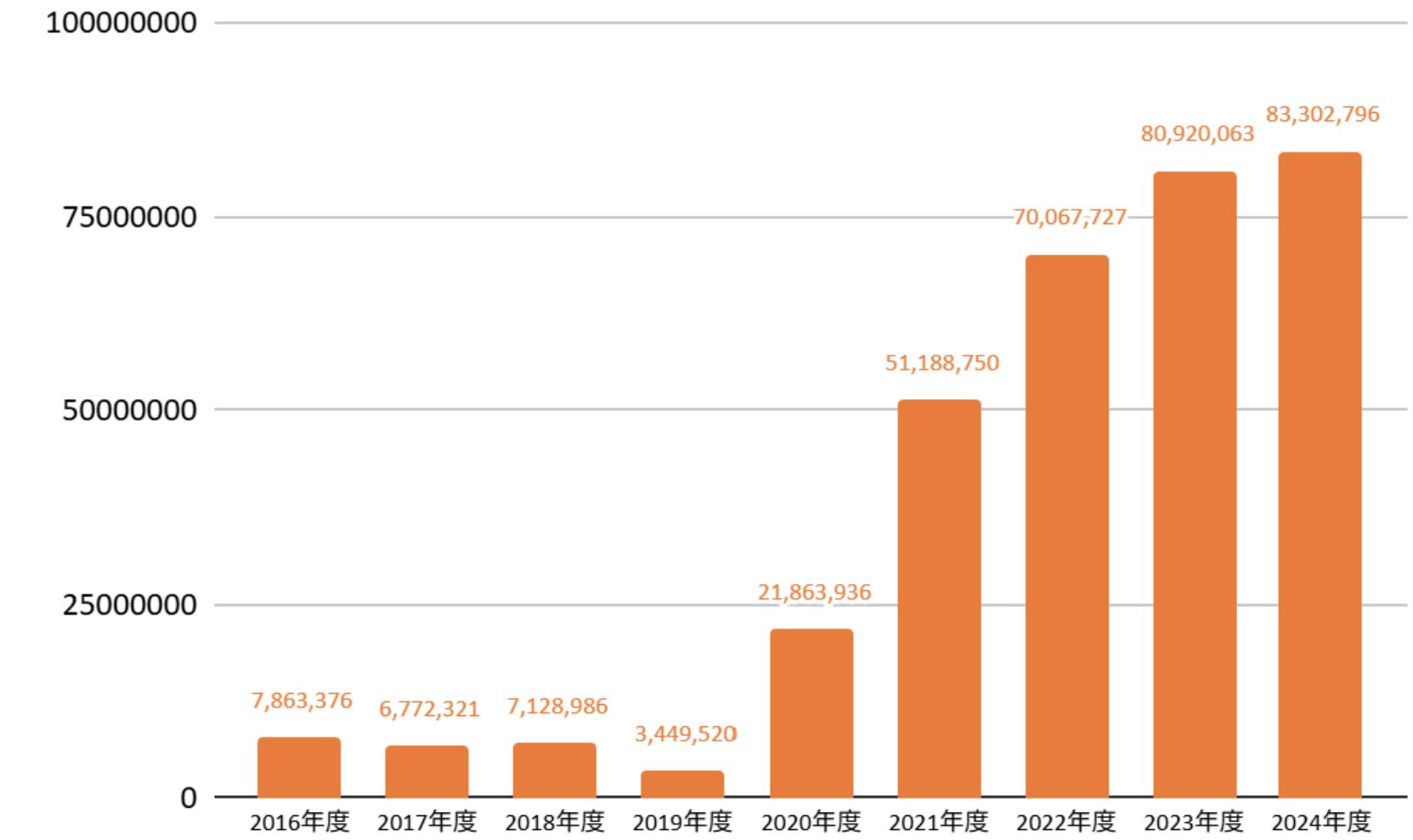
2023年度の経常収益は91,743,162円、2024年度は89,975,801円で約1.9%の減少となりました。これは、STORIAが仙台市に提案した施策化事業を確実に推進し、事業の質と持続性を優先するため、助成金の獲得を意図的に抑えたことによるものです。

結果として、事業は計画通り質を高め、単年度事業から3年の複数年事業へと、持続可能なものへと発展させることができました。

収益



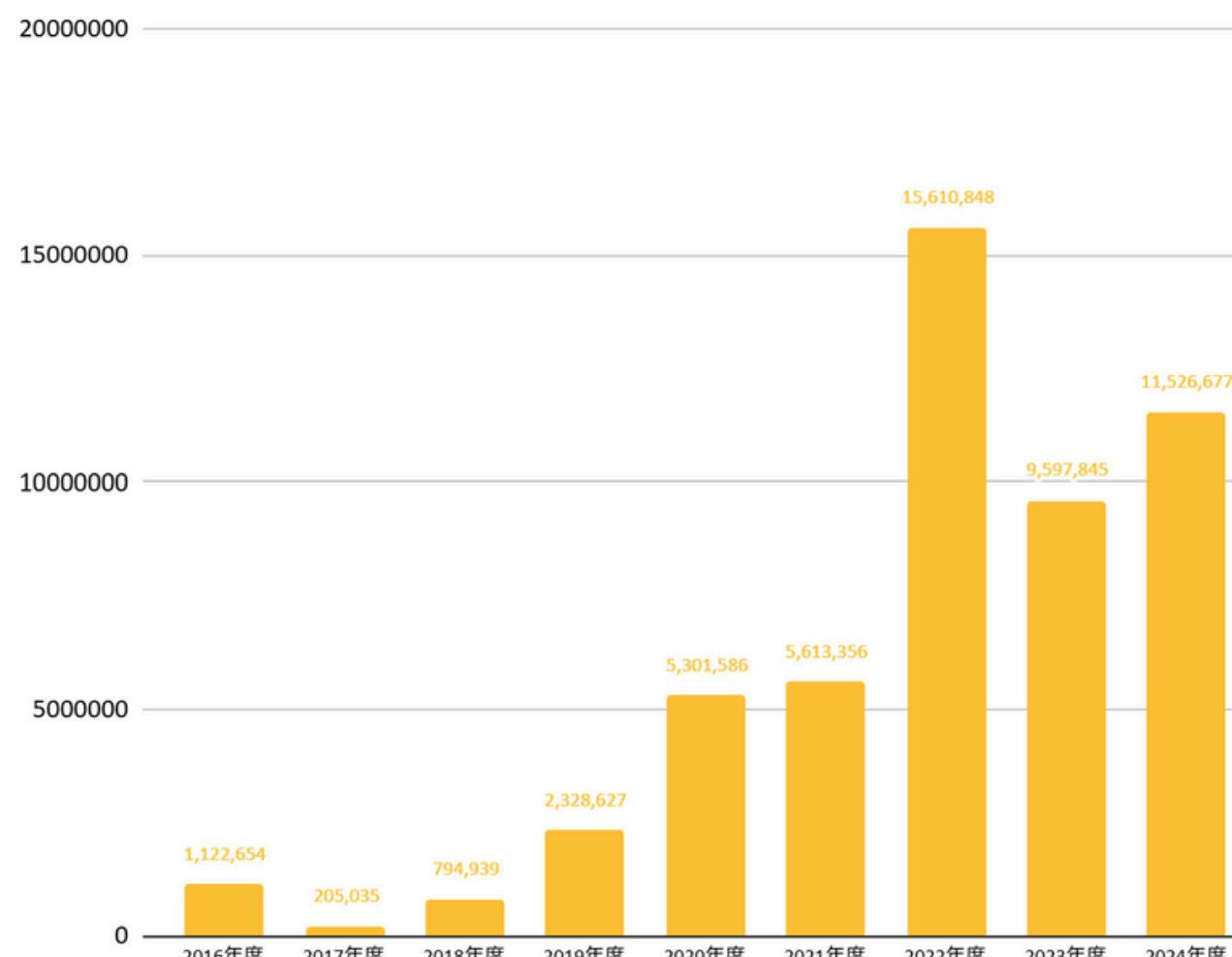
費用



2024年度活動の収支報告

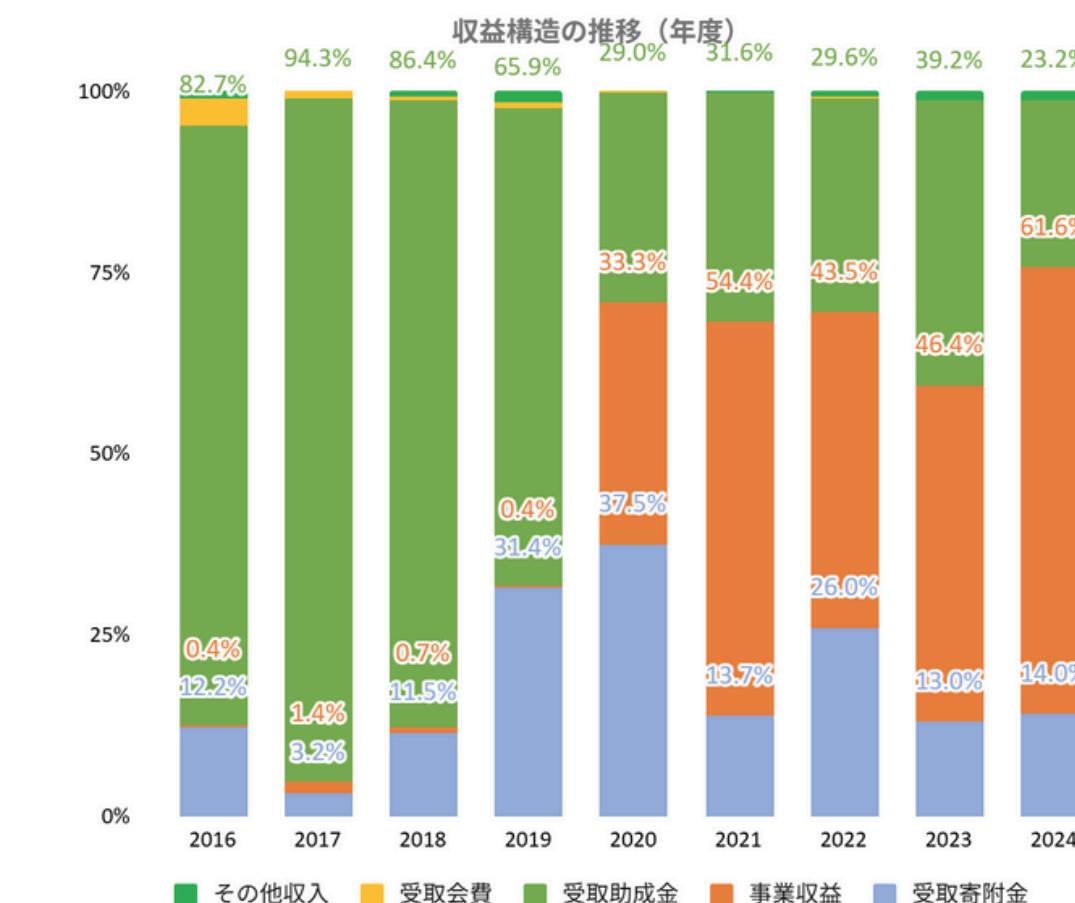
ご寄付の推移

2022年度はクラウドファンディングの実施により寄付額が大きく伸びましたが、2023年度・2024年度は単年施策に依存せず、寄付が着実に増加しました。寄付額は前年度から約20.1%の増加となりました。この継続的な伸びは、STORIAの活動に賛同する支援者が確実に広がっている証であり、STORIAが社会参画のプラットフォームとしての役割を高めていることを示しています。



収益構造

仙台市施策化事業を中心に、公的委託収益が基盤となりながら、寄付による民間収入も着実に伸び、リスク分散された健全な収益構成を保っています。助成金へ依存せず、持続可能な仕組みに移行できたことで、事業の質向上と財務の安定性を両立した1年となりました。



STORIAを支えてくださる方々

STORIAの仲間



ボード・アドバイザー 9名



プロボノ 32名



ボランティア 430名



スタッフ15名



ジュニア・ボランティア 16名



ご支援者 945名

STORIAからサポーターさんへのニュースレター
"STORIA STORIES"

vol.58 2025.11.22



STORIAは、多くの仲間に支えられて成り立っています。

現場でこどもたちに寄り添うボランティアの皆さま、こどものサードプレイスの卒業生として活動を担ってくれているジュニア・ボランティア。

さらに、ファンドレイジング、啓発事業を支えてくださるプロボノの方々、多様な専門分野から力を貸してくださるアドバイザー、そして継続的にご寄付くださるサポーターの皆さま。

こうしたお一人おひとりの存在があるからこそ、STORIAの営みは日々紡がれています。

私たちは、組織の幸せ、こどもや家庭の幸せ、そして地域社会の幸せ、そのすべてを大切にすることを指針としております。

仲間の思いがつながり合い、支え合うことで、「愛情の循環」はここから大きく広がっています。この循環を共につくり続けてくださるすべての皆さんに、心より深く感謝申し上げます。

ご支援いただいたご寄付について

認定NPO法人STORIAは、仙台市より公益の増進に資する団体として、2022年に認定NPOとして認められました。支援者の皆様に心より感謝申し上げます。

<税制上の優遇措置（寄付金控除）について>

認定NPO法人へのご寄付は寄付金控除の対象になります。

- ・個人の方の場合：寄付金から2,000円を引いた額の最大50%が戻ってきます。
*確定申告を行うことで寄付金控除が受けられます。年末調整では申告できません。

【例】

年間10,000円の寄付をした場合→最大4,000円が戻ってきます。

- ・ $(10,000 - 2,000) \times 40\% \text{ (国税分)} = 3,200\text{円}$
 - ・ $(10,000 - 2,000) \times 10\% \text{ (地方税分 最大10\%)} = 800\text{円}$
- 3,200円 + 800円 = 4,000円

年間36,000円の寄付をした場合→最大17,000円が戻ってきます。

- ・ $(36,000 - 2,000) \times 40\% \text{ (国税分)} = 13,600\text{円}$
 - ・ $(36,000 - 2,000) \times 10\% \text{ (地方税分 最大10\%)} = 3,400\text{円}$
- 13,600円 + 3,400円 = 17,000円

※地方税の控除割合は各自治体によって異なります。

※控除額には一定の上限額があります。また、所得によっては所得控除方式が有利となる場合があります。詳しくは最寄りの税務署にお問い合わせください。

【寄付金控除を受けるまでの流れ】

<12~1月>

源泉徴収票・領収書をそろえる。(STORIAから領収書を発行いたします)



<2~3月>

確定申告書を作成して、税務署に提出する。



<4月頃>

控除額が決定。還付金が振り込まれる。

- ・法人の方の場合：一般寄付金の損金算入限度額とは別に、特別損金算入限度額の範囲内で、損金として算入することができます。

*詳しくは最寄りの税務署にお問い合わせください。



ありのままでいい
きみの物語は
きみのもの
Be yourself.
Your story belongs to you.

CONTACT

- 🌐 <https://www.storia.or.jp/>
- ✉️ <https://www.storia.or.jp/contact/>